

魅力あるレクリエーションの森を目指して

岩手北部森林管理署 総務グループ 事務管理官 ○葛西陽介
八幡平市 商工観光課 課長補佐兼商工労政係長 ○多田和雄
岩手北部森林管理署 総務グループ 一般職員 谷地真梨佳

1. はじめに

岩手北部森林管理署では豊かな自然環境を積極的に活用するため、管内の国有林野の中から美しい森林や山岳、溪谷、湖沼などの景勝地及び野外スポーツに適した森林を「レクリエーションの森」として7カ所3,562haを設定し、国民の保健・文化・教育的利用に広く提供している。他方、当署のレクリエーションの森制度は設定から35年以上が経過しており、施設等の整備水準が低下していることをうけ平成17年度からレクリエーションの森の利用状況を踏まえたうえで、快適な利用環境が確保できるよう、設定の見直しや地域と連携した管理体制の充実を図ってきており、平成29年度に2箇所の見直しをした。

本研究では平成29年度に特に優れた森林景観を有するなど、観光資源としての潜在的魅力が認識されるレクリエーションの森として「日本美しの森お薦め国有林」に焼走自然観察教育林が選定され、森林景観を活かした観光資源の創出事業の対象となったことから、魅力あるレクリエーションの森の実現に向け、利用者ニーズ等の変化を踏まえ、施設の環境整備や利用促進を図る取り組みについて考察した。

1 実施箇所について

焼走自然観察教育林は岩手県八幡平市平笠に位置し、設定面積は241.13haである。このフィールドは炊事場付きでキャンプファイヤーも可能な野営場、国の特別天然記念物にも指定されている「焼走り熔岩流」の見学を兼ねた散策路のほか、レクリエーションの森からは外れているものの、キャビンでの宿泊ができ温泉も利用できる「焼走り国際交流村」という施設が隣接していることもあり平成28年度の周辺施設も含めた利用者数は約5万6千人となっている。特に、焼走り熔岩流は訪日外国人向けのオンラインガイドブック「Planetyze」に掲載されるなど海外からの注目も高まっている。

2 野営場の状況について

野営場の利用者数は平成28年度が1,704人と周辺利用者数全体の3%未満であり実際の利用者からも「野営場から岩手山の眺望をもっと良くして欲しい」「カラマツ林がうっそうとしていて利用しづらい」「看板が古く、何を書いているかわからない」「古い建物があって利用しにくい」といった周辺環境の荒廃、関係施設の老朽化に対する改善要望があがっていた。

2. 取組方法及び実施結果

以上のような、焼走自然観察教育林における改善要望について、所在自治体であ

る八幡平市と森林管理署で共通認識を持つため事業担当者を中心に打合せを行い具体的な対応策を検討することとした。打合せの中で施設の修繕や景観の改善の要望が自治体にも届いているということが判明したため、「八幡平地域総合森林レクリエーションエリア管理運営協議会」（以下、協議会という。）で議論するとともに、協議会が出された要望を踏まえ、今後のレクリエーションの森についてワークショップ等を実施することとした。

1 協議会について

- (1) 協議会は八幡平地域に所在する6箇所のレクリエーションの森について、包括的に管理・運営ができるように平成28年度に設立したものである。
- (2) 目的として八幡平地域総合森林レクリエーションエリアを構成する自然休養林等において、森林の有する国土の保全、自然環境の保全・形成等公益的かつ多角的機能との融和を図りながら、計画的なレクリエーション施策を推進することとしている。

2 協議会からの要望事項について

- (1) 岩手山の眺望改善
- (2) カラマツ林の森林整備と歩道設置
- (3) 老朽化した未利用建物の収去
- (4) インバウンド増加を見込んだ看板等の整備
- (5) 周辺エリアとの情報連携強化に向けたネットワーク通信改善

3 実施事項について

2. -2の(1)から(5)のうち修景伐採の実施、除伐、つる切り、木柵歩道の設置を実施するとともに、未利用建物の収去を平成29年度、30年度の2年度で実施することとした。

4 作業前後の比較

(1) 修景伐採

稜線がカラマツに遮られ岩手山の眺望が阻害されていたが作業後は野営場から岩手山を望む景観が改善された。

(2) 森林整備

かん木がうっそうとしており薄暗い印象が強く、道路側から中が視認できなかったが作業後は全体的に明るくなった。

(3) 歩道設置工事

工種は長期的な管理や整備を考慮して再生アスファルト舗装を実施した。また、カラマツを伐採することなく曲線的な線形を設定したため樹勢のいいカラマツを身近に感じられるとともに、舗装をすることで小さい子供からお年寄りまで、気楽に散策できるようになった。(図1)

(4) 未利用建物の収去

野営場の管理棟として建設したが現在まで未利用となっていたもので、収去後は、野営場全体がすっきりとし、野営場自体の利用面積も広がった。



図 1

5 結果の共有

協議会において作業実施箇所で視察会とワークショップを開催した。視察会、ワークショップには協議会構成員の他、八幡平市議会、周辺施設の関係者、地元大学である岩手大学農学部の大学生、計 23 名が参加した。

(1) 視察会の感想

- ① 野営場は昔から知っているが、まるで別物のようにすっきりした。
- ② 岩手山の眺望が改善されている。
- ③ 歩道が整備されてカラマツ林内を気持ちよく歩ける。
- ④ レクリエーションの森というのを初めて聞いた。
- ⑤ 焼走熔岩流は知っていたが、野営場の存在は知らなかった。

(2) ワークショップの結果

A、B、C の 3 グループに分かれて「レクリエーションの森の新たな活用法」というテーマのもと、ワークショップを開催した。3 グループに共通した意見として「内外への情報発信」「目的に合わせた整備」が出され、各グループからのアイデアとして「ターゲットを絞った活用」、「通年利用に向けた取り組み」、「集客をあげるための整備」といったものが出された。

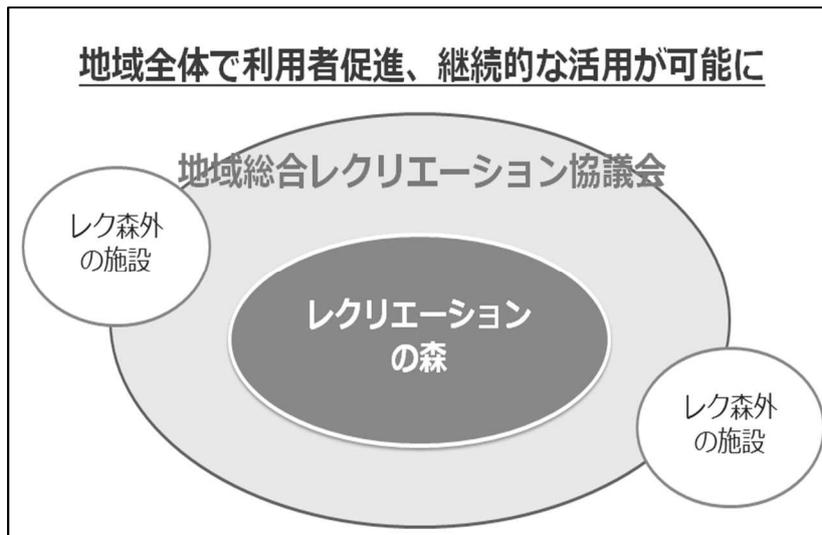
3. 考察

協議会での話し合いや取り組みを重ねるなかで、周辺地域の集約的組織を設立し、地域一体となって取り組むことにより、包括的にレクリエーションの森の情報を共有することができ、地域の合意形成を図りながら産学官連携事業として発展させていくことが可能だと認識できた。

今回のケースでは利用者ニーズに適した施設改善や利用者促進に向け取り組む中で、修景伐採、森林整備、歩道設置を実施することができた。更に現地での視察会、ワークショップを開催したことで新聞報道等を中心に地域内外への情報発信や PR へ繋がられた。

このように協議会を通じ八幡平市はもとより、広く岩手県内外に情報発信をしていくことで、レクリエーションの森を起点に周辺施設を含めた全体的な利用促進と

継続的な活用に繋げていくことが可能になるのではないかと考える。(図2)



併せてレクリエーションの森の情報発信と整備、管理を単独で実施することなく、双方を繋げ継続していくことが重要である。整備、管理が一過性になってしまうと、時間経過と共に荒廃が進み利用者ニーズの変化に対応できなくなる。

図2

積極的な情報発信についても、まずはレクリエーションの森を認知してもらうことが必要である。いくらニーズに適した整備を実施していてもレクリエーションの森を認知してもらえなければ無駄になってしまう。今回の視察会においても2. -5-(1)の①から③のように新たな発見がある一方で、④、⑤のようにそもそもレクリエーションの森を認知してもらっていないといった情報発信不足に起因する感想も出されたことから、やはりこの2つを繋げるために今回発足させた協議会において、地域を包括的に管理運営するために議論することが重要である。

4. まとめ

考察でも論述しているとおり、魅力あるレクリエーションの森の実現に向けては地域を統括できる協議会のような組織を設立した上で、情報発信と整備・管理を繋げ継続していくことで地域全体のレクリエーションの森に対して取り組みを共有できるだけでなく、構成メンバーである地元企業や地域代表者らの目線がレクリエーションの森に向き、それぞれ利用者ニーズに適した継続的な情報発信と整備、管理が望める。(図3)

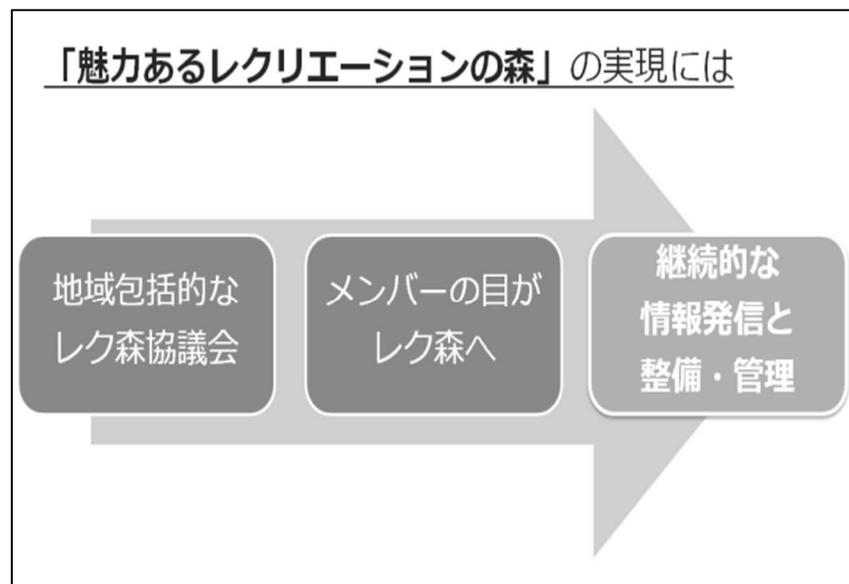


図3

最後に、ワークショップで出された「レクリエーションの森の新たな活用法」について各グループから出されたアイデアの詳細について紹介する。(図4)

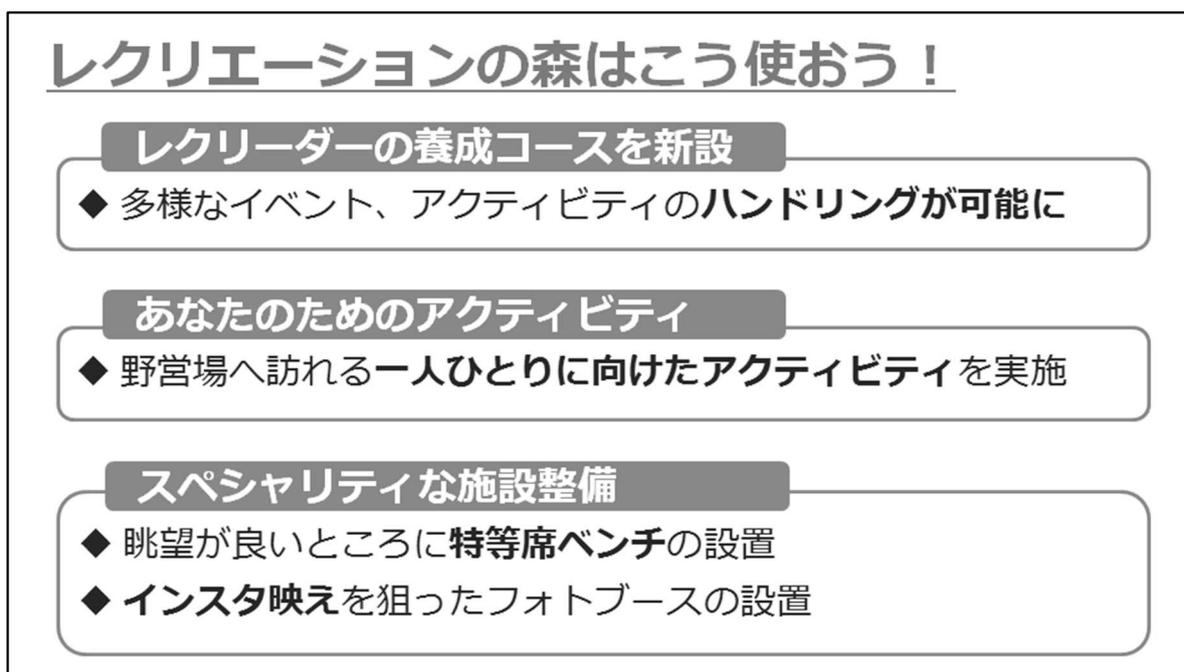


図4

Aグループ「レクリーダー養成コースの新設」

焼走自然観察教育林周辺を主なフィールドにして、レクリーダーを養成することで各種イベントのハンドリングが可能となり自由で独創性豊かな取り組みを提案することができる。

Bグループ「あなたのためのアクティビティ」

具体的には、スタンプラリー、ドッグランの設置、ナイトハイク、音楽フェスの開催など野営場に訪れる一人ひとりに向けた多種多様な取り組み。

Cグループ「スペシャリティな施設整備」

眺望が良いところに設置する特等席ベンチ、インスタグラム用のフォトブース、エレベーター付き展望台など焼走り自然観察教育林の魅力を更に引き出す取り組み。このように、ワークショップで出された夢のあるアイデアも取り入れながら、引き続き協議会と連携し、「魅力あるレクリエーションの森」の実現に取り組むとともに、当署目標である「地域にとって、あって良かったと思われる森林管理署」を目指していく。

謝辞

本研究を進めるにあたりご指導・ご協力いただいた関係各位の皆様に対しこの場を借りて心から感謝申し上げます。